

赤坂御用地と常盤松御用邸のミバエ科昆虫

末吉昌宏¹⁾

Masahiro Sueyoshi¹⁾: Tephritid Flies of the Akasaka Imperial Gardens and the Tokiwamatsu Imperial Villa, Tokyo, Japan

ミバエ科 Tephritidae は双翅目短角亜目無弁類に属し、世界の熱帯、亜熱帯、温帯の森林、草原から約 570 属 4,300 種余りが記載されている (Norrbom *et al.*, 1999). 日本からは 69 属 178 種が知られているが、新記録種や未記載種の発見を見込むと、総数 200 種前後が分布しているものと考えられている (末吉, 2000).

東京都のミバエ科昆虫相に関する報告として Shiraki (1933), Ito (1983–1985), 末吉 (2000) を挙げることができる。これらの報告で、東京都産ミバエ科昆虫 18 種が記録されたが、その構成内容は埼玉県および神奈川県東部のそれと多くの種を共有しており、かつ旧武蔵国 (現在の埼玉県, 東京都, 神奈川県東部) から 50 種のミバエ科昆虫が記録されている (末吉, 2000) ことから、東京都にはまだ多くの未記録種が潜在していると考えられる。

本報告では、2002 年 4 月から 2004 年 4 月にかけて東京都渋谷区の赤坂御用地と常盤松御用邸において採集されたミバエ科昆虫 91 個体について同定した結果を報告する。今回の調査で採集されたミバエ科昆虫は 2 亜科 18 種に分類され、そのうち 5 種が東京都からはじめて発見された。ミバエ科の分類体系は Norrbom *et al.* (1999), Han (2000) に従い、和名は九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター (1989), 末吉 (2000) に準じた。標本データは採集地、雌雄個体数、採集年月日、採集方法を記した。採集地点は常盤松御用邸 (常盤松) と赤坂御用地 (赤坂) である。採集方法の略表記は次の通りである: マレーゼトラップ (MT), スウィーピング (SW)。東京都からの新記録種には*を付した。本報告で用いられた標本は国立科学博物館分館に保管される。

結 果

ケブカミバエ亜科 Tephritinae

ケブカミバエ族 Tephritini

1. ノゲシケブカミバエ *Ensina sonchi* (Linnaeus, 1767).
赤坂: 2♂, 30.iv.2002, SW; 1♂, 15.iv.2003, SW.
2. ツマホシケブカミバエ *Trupanea convergens* Hering, 1936.
赤坂: 3♀, 15.iv.2003, MT; 1♀, 10.vi.2003, MT; 1♀, 2.ix.2003, MT.

ハマダラミバエ亜科 Trypetinae

ホソハマダラミバエ族 Adramini

3. *ツバキハマダラミバエ *Euphranta (Rhacochlaena) camelliae* (Ito), 1949.

¹⁾ Japan Society for the Promotion of Science, Postdoctoral Fellow of Research Abroad, Department of Entomology, PO Box 37012, National Museum of Natural History, Room CE607, MRC169, Smithsonian Institution, Washington DC, 20013–7012 USA
E-mail: sueyoshi.masahiro@nmnh.si.edu

赤坂: 1♀, 24.vi.2004, SW.

4. *オウトウハマダラミバエ *Euphranta (Rhacochlaena) japonica* Ito, 1947.
常盤松: 1♀, 17.vi.2003, MT.
5. ムラクモハマダラミバエ *Euphranta (Rhacochlaena) nigrescens* (Zia, 1937).
赤坂: 1♂, 8.vii.2002, MT; 1♂, 15.iv.2003, MT.
6. *Euphranta (Rhacochlaena)* sp. (図 1)
赤坂: 1♂, 25.xi.2002, MT.

ミバエ族 Dacini

ミバエ亜族 Dacina

7. ミスジミバエ *Bactrocera (Zeugodacus) scutellata* (Hendel, 1912).
赤坂: 1♀, 11.xi.2002, MT; 1♀, 30.vi.2003, SW; 1♂, 6.viii.2003, SW; 1♂1♀, 16.ix.2003, MT; 1♀, 16.iv.2004, SW.

タケハマダラミバエ亜族 Gastrozonina

8. *ナツササハマダラミバエ *Acrotaeniostola scutellaris* (Matsumura, 1916).
赤坂: 1♀, 8.vii.2003, MT; 1♀, 15.vii.2003, MT; 1♂, 16.ix.2003, MT.
9. ハルササハマダラミバエ *Paragastrozona japonica* (Miyake, 1919).
赤坂: 1♀, 4.iii.2003, MT; 19♂4♀, 15.iv.2003, MT; 7♂4♀, 28.iv.2003, MT; 3♂7♀, 10.vi.2003, MT.

ハマダラミバエ族 Trypetini

ヒゲハマダラミバエ亜族 Chetostomatina

10. ツマモンハススジハマダラミバエ *Anomoia apicalis* Ito, 1984.
赤坂: 1♂, 15.iv.2003, MT.
11. オスグロハススジハマダラミバエ *Anomoia okinawaensis* (Shiraki, 1968).
赤坂: 1♂, 8.vii.2002, SW.
12. モチノキハマダラミバエ *Genus* sp.
常盤松: 1♂1♀, 13.v.2003, MT. 赤坂: 1♂, 22.iv.2003, MT.

ハマダラミバエ亜族 Trypetina

13. イヌビワハマダラミバエ *Acidiella diversa* Ito, 1952.
常盤松: 3♀, 11.xi.2002, MT. 赤坂: 1♂1♀, 10.vi.2003, MT; 3♂, 24.vi.2003, MT; 2♀, 28.x.2003, MT.
14. *タンポポハマダラミバエ *Hemilea infuscata* Hering, 1937.
赤坂: 1♀, 14.x.2003, MT.
15. フチモンハマダラミバエ *Magnimyiolia fusca* (Ito, 1949).
常盤松: 1♀, 4.vi.2003, MT. 赤坂: 1♂, 9.v.2002, MT; 1♀, 23.v.2002, MT; 2♀, 4.vi.2003, MT.
16. クロホソスジハマダラミバエ *Philophylla fossata* (Fabricius, 1805)
赤坂: 1♂, 8.vii.2002, SW.
17. ミスジハマダラミバエ *Trypeta zoe* Meigen, 1826.
赤坂: 1♂, 18.iv.1997, SW.
18. **Vidalia accola* (Hardy, 1973)
赤坂: 1♀, 25.xi.2002, MT.

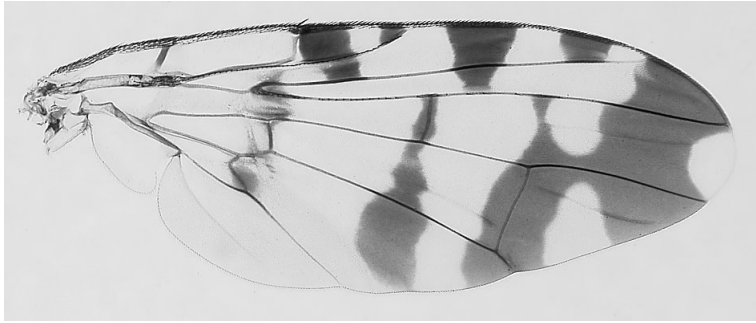


図1 *Euphranta (Rhacochlaena)* sp. 右前翅背面図.

考 察

この調査で採集されたミバエ科昆虫は18種91個体と比較的小さなコレクションであった。これらの種のうち、*Acrotaeniostola scutellata* と後に述べる *Euphranta* sp. を除く16種は旧武蔵国に属する地域に広く分布する普通種である(末吉, 2000)。しかし、*Euphranta camelliae*, *E. japonica*, *Hemilea infuscata*, *Vidalia accola* はこれまで東京都では記録がなく、今回はじめて分布が確認された。また、*Acrotaeniostola scutellata* は初夏から秋にかけて北海道から九州までの広い地域でササ類の上で普通に見られる種であるが、これまで旧武蔵の国では分布の記録がなく、今回初めて分布が確認された。東京都からこれら5種が新たに記録されたことによって、東京都産のミバエ科昆虫は23種を数えることとなった。

今回の調査の結果、ミバエ科の分類に関して注目すべき種として *Euphranta* sp. を挙げることができる。本種はこれまで日本で分布が確認されている同属の他種とは明らかに異なる前翅斑紋パターンを示す種である(図1)。また、同様の斑紋をもつ *Euphranta (Rhacochlaena)* の種は東アジアからいくつか知られているが、いずれとも厳密に一致しない。Ito (1983-1985) が日本の石垣島から記録した *E. jucunda* (Hendel, 1915) は *Euphranta* sp. とよく似た前翅斑紋をもつ種であるが、前者は翅端の斑紋(翅室 r_{2+3} から翅室 m にかけて広がる斑紋)と翅室 r_1 先端の斑紋、横脈 $dM-Cu$ 上の斑紋が融合するといった特徴によって *Euphranta* sp. とは明確に区別できる。また、Hendel (1915) は *E. jucunda* を台湾産の標本に基づいて記載したが、今回の標本に見られるような顔面の1対の黒斑について記載されておらず、斑紋の記載も石垣産および今回の標本のものとは一致しない。*Euphranta japonica* も *Euphranta* sp. とよく似た前翅斑紋をもつ種であるが、*E. jucunda* と同様に翅端の斑紋(翅室 r_{2+3} から翅室 m にかけて広がる斑紋)と翅室 r_1 先端の斑紋が融合する一方、かつ横脈 $dM-Cu$ 上の斑紋と翅室 r_1 先端の斑紋が分離するため *Euphranta* sp. とは明確に区別できる。また、*E. japonica* の腹部背板と腹板は一樣に暗褐色であるが、*Euphranta* sp. のそれらは黄褐色を下地とし、第1-3腹節背板前縁に1対の暗色斑、第4-5腹節背板前縁に暗色帯を持つ。これらの斑紋、体色の違いを種間の差とするか、種内変異のなかに含めるかは議論のあるところであるが、今回は別種とした。本種と酷似した♀個体が千葉県市川市から得られている(内田, 2004)。*Euphranta jucunda* の模式標本と、石垣の個体すなわちIto (1983) で *E. jucunda* と同定された個体を詳細に検討し、今回の標本と市川市産の個体の分類学的な位置づけについて再検討する必要がある。

謝 辞

本報告をまとめるにあたり、これらのミバエ科昆虫を採集し、貴重な採集品を調査する機会を与え

ていただいた篠永 哲博士（東京医科歯科大学医学部）にお礼申し上げる。トラップの設置およびその採集品の回収、標本の分別を行って頂いた大和田守博士（国立科学博物館）、新津修平氏（東京都立大学）、慶野志保子氏（西東京市）に、また、標本の一部の採集を行って頂いた有田 豊博士（名城大学）、岸田泰則氏（宝仙学園中高等学校）、神保宇嗣博士（東京都立大学）、故池田真澄氏（武蔵野市）に、また、内田（2004）で報告された *Euphranta (Rhacochlaena)* sp. の標本を所検する機会を頂いた内田正吉氏（埼玉県寄居町）に、あわせてお礼申し上げる。

Summary

Fruit flies collected at the Akasaka Imperial Gardens, Tokyo, and the Tokiwamatsu Imperial Villa in Shibuya-ku, Tokyo, during April 2002–April 2004, were listed. A total of 90 specimens were captured by Malaise traps (MT) and sweepings (SW). These were assigned to 18 species of two subfamilies, Tephritinae and Trypetinae. Among them, *Euphranta* sp. was noted taxonomically. It is similar to *E. jucunda* (Hendel, 1915) and *E. japonica* Ito, 1947 in wing marking pattern (Fig. 1), but different from them by wing marking expanded from apices of the wing cells r_{2+3} to m separate from wing markings on apex of the wing cell r_1 and the crossvein dM-Cu. *Euphranta* sp. also has yellow abdomen, with dark brown markings on anterior margin of the abdominal tergites, while *E. japonica* has entirely dark brownish abdomen. All 18 species of tephritid flies examined here are common to adjacent regions in Kanto District, but *E. camelliae* Ito, 1949, *E. japonica*, *Acrotaenostola scutellata* (Matsumura, 1916), *Hemilea infuscata* Hering, 1937, and *Vidalia accola* (Hardy, 1973) were recorded from the Tokyo Metropolis for the first time.

引用文献

- Han H.-y. 2000. Phylogeny and behavior of flies in the tribe Trypetini (Trypetinae). In Aluja, M. & A. L. Norrbom (eds.), *Fruit Flies (Tephritidae): Phylogeny and Evolution of Behavior*, pp. 253–297. CRC Press, Boca Raton.
- Hendel, F., 1915. H. Sauter's Formosa - Ausbeute. Tephritinae. *Annl. hist.-nat. Mus. natn. hung.*, **13**: 424–467.
- Ito, S., 1983–1985. *Die Japanischen Bohrfliegen*. 352pp. Maruzen, Osaka.
- 九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター, 1989. *日本産昆虫総目録*. 1767 pp. 九州大学農学部昆虫学教室, 福岡.
- Norrbom, A. L., L. E. Carroll & A. Freidberg, 1999. Status of knowledge. In Thompson, F. C. (ed.), *Fruit fly expert identification system and systematic information database*. *Myia*, **9**: 9–47.
- Shiraki, T., 1933. A systematic study of Trypetidae in the Japanese Empire. *Mem. Fac. Sci. Agr. Taihoku imp. Univ.*, **8**(2): 1–509.
- 末吉昌宏, 2000. 皇居のミバエ科昆虫. *国立科博専報*, (36): 437–443.
- 内田正吉, 2004. 市川市のハエ類. 市川市自然環境調査会(編)市川市自然環境実態調査報告書 2003, pp. 589–598. 市川市.